

## 入選

## テーマ：誰かのために、わたしができること 「精一杯生きる」

静岡県立韮山高等学校2年 山田莉彩

私には、夢がある。看護師になることだ。看護師になりたいと思っただのは、中学一年の秋。私の友人が病気でこの世を去ったのだ。当時の私は、無力であったが、尊い命を守るため看護師になると心に誓った。生前彼はこのようなことを言っていた。「病気になって命の大切さを知った。僕がこれほど生きたいと願っているのだから、もっともっと楽しく生きて、辛いことがあっても乗り越えて、僕の方まで後悔しないように生きてほしい」と。その時は彼の病気が治ると信じていた私は、早く病気を治してみんなに会おうと言った。私と彼の会話はこれが最後だ。もっと違ふ言葉をかけるべきだったのか、今でも考えることがある。彼が亡くなってすぐは悲しくて何もできないことが多かった。ふと彼の言葉を思い出し、彼のためにも精一杯生きよう。人の命に関わる仕事に就こう、と決めた。そこから私の努力は始まった。目立って勉強ができるわけではなかった私は、地元の進学校に通うため猛勉強した。部活動も精一杯やった。全部が全部うまくいくわけもなく、たくさん苦しみを味わった。今までの私は、最後まで何かを成し遂げることができなかった。やる気はあるものの、継続して努力することが苦手だった。すぐに飽きてしまい、三日坊主とよく言われた。そんなわけで何かを成し遂げた時の達成感は一度も味わったことがなかった。しかし、彼の存在があったから私は変わった。一緒に生き続けることができなかった彼の将来は、無限の可能性を秘めていた。だからこそ何事も頑張れるようになったのだ。

今年で彼がこの世を去ってから四年になる。彼はきつと自分と同じ病気の人や、病気で安心して生活できない人を助けてあげてほしいと願っているだろう。私は、看護師の仕事がどういものか細かく知らないが、ナース体験には積極的に参加している。そこでいつも思うこ

とは、決して楽な仕事ではないということ。だが、やりがいの大きい仕事であるということ。ミスは許されず、患者さんの意思を尊重しなければいけないことも学んだ。ほかにもたくさんあると知った。

よく口ぐせのように、「死ね」「殺すよ」「死にたい」などと言う人がいる。生きたくても生きられない人の気持ちを考えたら、そのような言葉は絶対口にしないはずだ。私はこれからの学校生活で、このような言葉を使う人を減らしたいと考える。ただ思っているだけで行動に移さなくては意味がない。一人ひとり平等に与えられた命を大切にしたいと思う。

彼が生きたかった今日や明日、僕が生きた方が良かったじゃないかと思われないうちに、毎日充実した生活を送りたい。高校生らしく部活動に勉強に恋愛……。毎日忙しく楽しく過ごしたい。そして、十年後には立派な大人になって病気に苦しむ人たちを助けられるような人になりたい。少子高齢化が進む日本には医療はなくてはならない存在となる。私一人では小さな力だが、大人数になれば大きな力となる。今、私ができることは勉強をすることなので将来に向けて頑張ろうと思う。あなたが生きたかった明日を、私は精一杯生きる。見守っていて。